熊取町埋蔵文化財調査報告14集

大浦遺跡発掘調査概要・Ⅰ

「大浦遺跡89年－１区の調査」

1990年３月

熊取町教育委員会

はしがき

大浦遺跡は大井出川左岸の段丘上に位置し、周知の遺跡である大浦中世墓地の範囲に隣接しており、過去この周辺においての発掘調査はあまり実施されておらず、このたび熊取町の歴史をなお一層明らかにする手がかりとして調査を行いました。

今回の調査により良好な遺物包含層と遺構が確認され、今後さらに大浦中世墓地の遺跡調査が進むにつれ、埋蔵文化財の存在、詳細が解明されるものと思われます。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました土地所有者ならびに関係者の方々に深く感謝いたします。

平成2年3月

熊取町教育委員会

教育長　山中長正

例　　言

1. 本書は熊取町教育委員会が平成元年度に実施した大浦遺跡の調査概要報告書である。

2. 調査と整理にかかるすべての費用は溝端岸雄氏の負担によるものである。

3. 調査は、熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として、平成元年11月6日に着手し、同年11月25日終了した。

4. 調査の実施と整理にあたっては、池辺吉也、辻本栄子、安福佳代、大門由香里、杉本由貴子の諸氏の協力を受けた。

   また関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。

5. 本書中の標高は、東京湾平均海水面を基準とし、方位は、地図以外は磁北を示すものとした。

6. 本書の執筆・編集は井田がおこなった。

7. 本書では、遺物については挿図、図版ともに同一番号または同一記号で記載することとした。

8. 調査にあたっては、写真・実測図等の記録を作成するとともにカラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 2
第２章　調査結果 …… 4
　第１節　調査の概要 …… 4
　第２節　調査の結果 …… 4
　　①検出遺構
　　②出土遺物
　第３節　ま と め …… 7

図 版 目 次

図版第一　遺構検出状況
図版第二　遺構検出状況・出土遺物
図版第三　出土遺物

挿 図 目 次

第１図　熊取町の位置 …… 1
第２図　調査地位置図 …… 2
第３図　大浦遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 3
第４図　調査区平面図 …… 5
第５図　出土遺物 …… 8

表 目 次

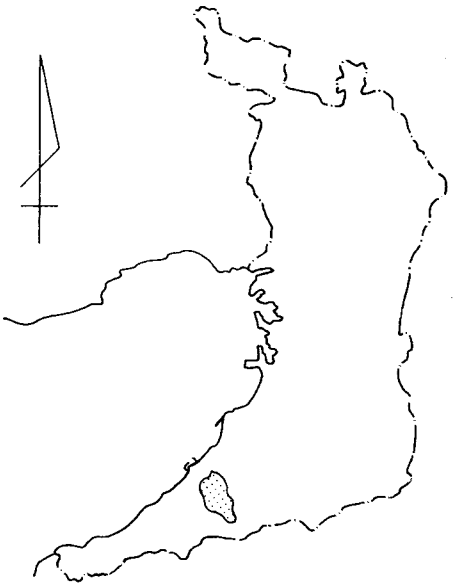
第１表　遺物観察表 …… 9

大浦遺跡発掘調査概要・Ⅰ

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

熊取町大字久保７０７－１において、溝端岸雄氏が学生寮建築を計画し、熊取町教育委員会では工事を実施するにあたり当該地が大浦中世墓地の範囲に隣接していることと、５００㎡以上の開発であることから当該地での文化財の存否について確認する必要があると判断し、溝端氏と協議をおこなった。これについて平成元年１０月１９日付で溝端氏より熊取町教育委員会教育長宛に文化財存否確認のための技師派遣依頼が提出され、同年１０月２６日試掘調査を実施することとした。



第１図　熊取町の位置

試掘調査は機械（バックホー）によりトレンチを掘削し、断面を観察し、遺構と遺物包含層の存否を確認する方法で実施したところ、遺物包含層を確認した。

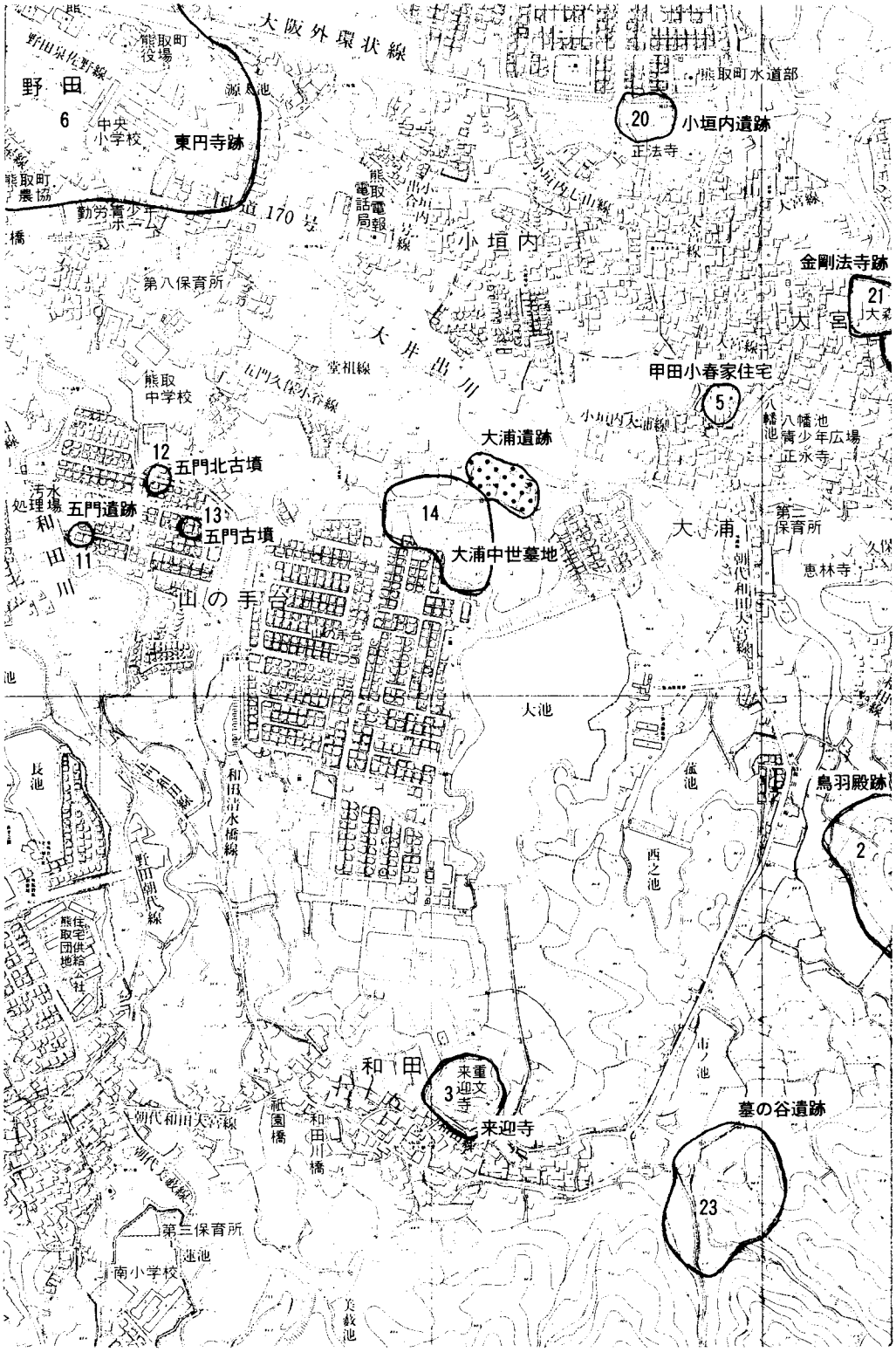
溝端氏より同年１０月２７日付で、文化財保護法第５７条の５第１項に基づく文化庁長官宛の遺跡発見届が熊取町教育委員会へ提出され、再度協議の結果、同年１１月２日付で受託契約をおこない、大浦遺跡として平成元年１１月６日より調査を実施することで合意した。

第２節　遺跡の位置と環境

大浦遺跡は大阪府泉南郡熊取町大字久保に所在する。大井出川左岸に位置し、周知の遺跡である大浦中世墓地に隣接する。周辺の地形は河岸段丘で、北に位置する大井出川にむかって徐々に標高を下げている。周辺では埋蔵文化財の調査はあまり実施されておらず、大浦中世墓地において昭和６２年度に個人住宅建築に伴う調査としてトレンチ調査を実施したが、弥生土器片が一点出土しているのみである。

大浦遺跡の存在する大井出川・住吉川流域には、周知の遺跡が多く存在して

第２図　調査地位置図



第３図　大浦遺跡の位置と周辺の遺跡

おり、熊取町内では久保城跡・城の下遺跡・久保Ａ遺跡・大浦中世墓地・東円寺跡・口無池遺跡・紺屋遺跡・大久保Ｂ遺跡・大久保Ｃ遺跡・大久保Ｄ遺跡・大久保Ｅ遺跡が流域に存在する。更に下流の泉佐野市域では、山出遺跡・檀波羅密寺・井原の里遺跡・湊遺跡などが存在するが、大井出川・住吉川流域周辺では、新たに遺跡が発見される可能性は極めて高く、その位置と範囲の確定と性格の把握は急務である。

第２章　調査結果

第１節　調査の概要

調査は調査申請地の面積７１７㎡のうち建物の基礎工事によって破壊される約１５０㎡を調査区域とし、盛土及び耕作土を機械により掘削・除去し、遺物包含層を人力掘削することとした。

土層は現地表から６０cmが盛土で、以下２５cm前後の耕作土、床土があり、黄褐色粘質土層、暗紫灰色粘質土層、暗灰色粘質土と存在し、地山の黄茶色砂礫層に達する。遺構としては柱穴が多数検出されているほかに土壙や流路を検出している。遺物としては主に１３世紀～１４世紀のものが主流であるが、弥生時代から近世の遺物も出土している。

第２節　調査結果

①　検出遺構

当該地での調査で検出した遺構は柱穴、溝、鍬跡である。柱穴は建物として確定できるものはなかった。いずれの柱穴も掘り方が浅く、１０cmから２０cm前後のものであった。溝は巾８０cm前後を測るもので、南から北へ流れている。鍬跡は黄褐色粘質土層の上面で検出し、いずれも南北方向に存在していた。また遺構ではないが暗紫粘質土では橙色を呈す植物根跡がみられた。

第 4 図　調査区平面図

② 出土遺物

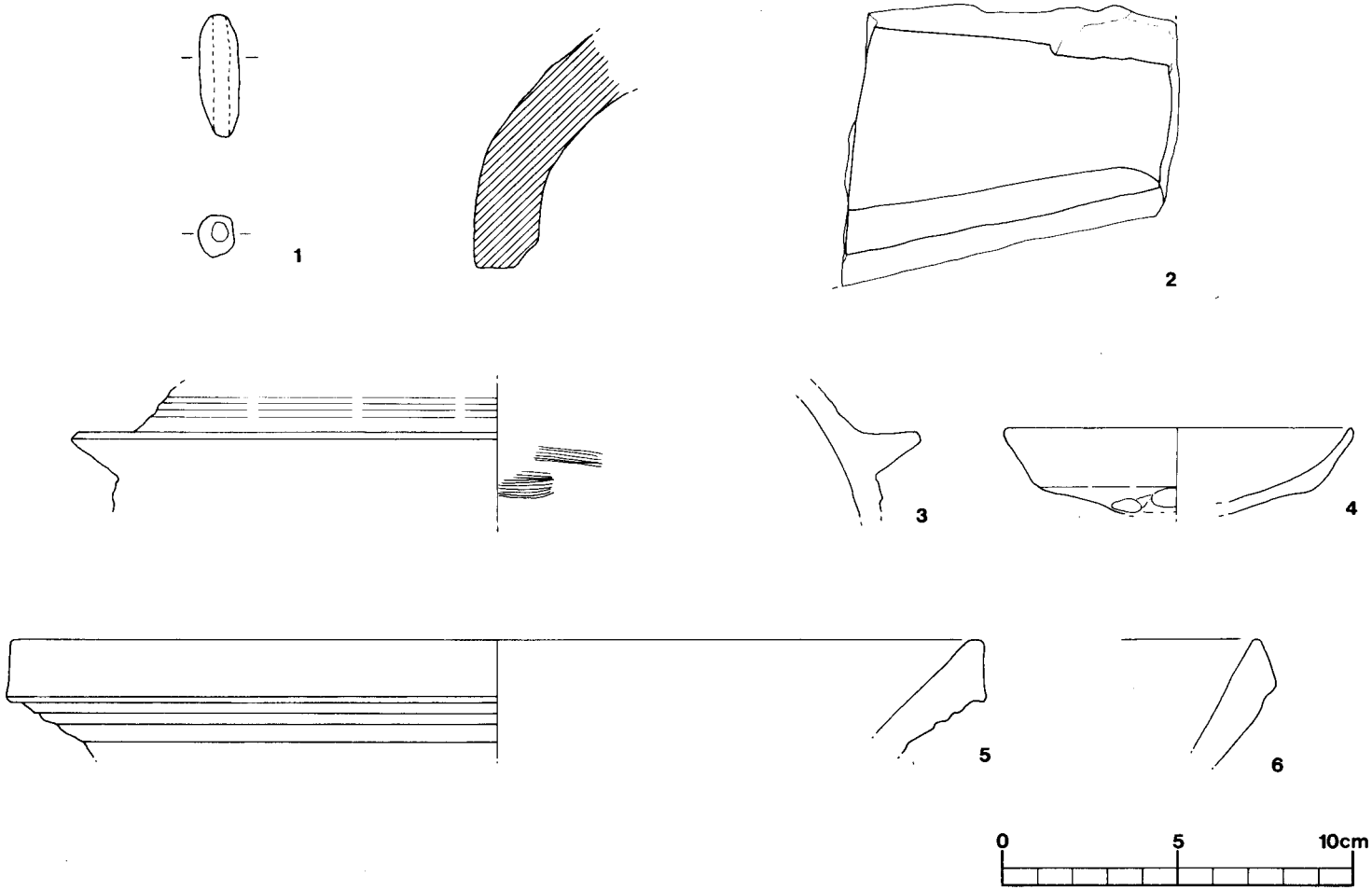
遺物については遺構からの出土はなくすべて包含層（暗紫灰色粘質土）からの出土であり、すべて破片である。出土したのは弥生土器、須恵器、土師器、瓦器埦、瓦器皿、東播系こねばち、羽釜、土錘などである。

図示し得たのは第５図の６点のみである。第５図１は土錘である。焼成は良好で、やや黒みをおびる。２は丸瓦の破片である。端部と側端部がそれぞれ一辺残存している。凸面には縄叩きの跡がみられ、縦方向にヘラミガキを加えてある。凹面には布目があり、斜め方向にヘラミガキを施してある。側端部はヘラキリしてある。胎土は良好で、二次的な焼成を受けているらしく橙白色を呈しやや軟である。３は羽釜で鍔の反転復元径は２４.２cmを測る。鍔下面に使用を示す煤が付着している。内面には刷毛目が残る。４は皿である。瓦器皿のようでもあるが、白色を呈し、どちらかといえばかわらけに近いものである。外面にユビオサエの跡がある。５・６は東播系こねばちの口縁部の破片である。いずれも堅く焼きしめられている。５は反転復元口径２７.８cmを測る。

第３節　まとめ

当該地においても良好な遺物包含層と遺構が確認できたことは新たな知見であった。しかし、熊取町教育委員会では埋蔵文化財の調査の歴史が浅く、遺跡範囲の把握・確定がまだまだ不十分であることは否めない。今回の発見を含めて平成元年度は３ヵ所の遺跡の発見があり、いずれも存否確認試掘によって発見されている。さらに同じような形で遺跡の発見される事例が増加するものと予測している。今後はこのような事例をできるだけ回避することが必要であると共に町内遺跡の範囲の把握・確定を早期に実現することが必要である。

当該地周辺では調査がほとんど実施されておらず、今回知り得た断片的な資料では遺跡の性格について語ることはできない。しかし、今後も継続して調査を実施していくことによって断片的な調査結果もやがては具体的な歴史像となりえるだろう。文末となったが、調査を実施するにあたりご理解いただき、また全面的にご協力いただいた溝端岸雄氏に深く感謝の意を表すものである。



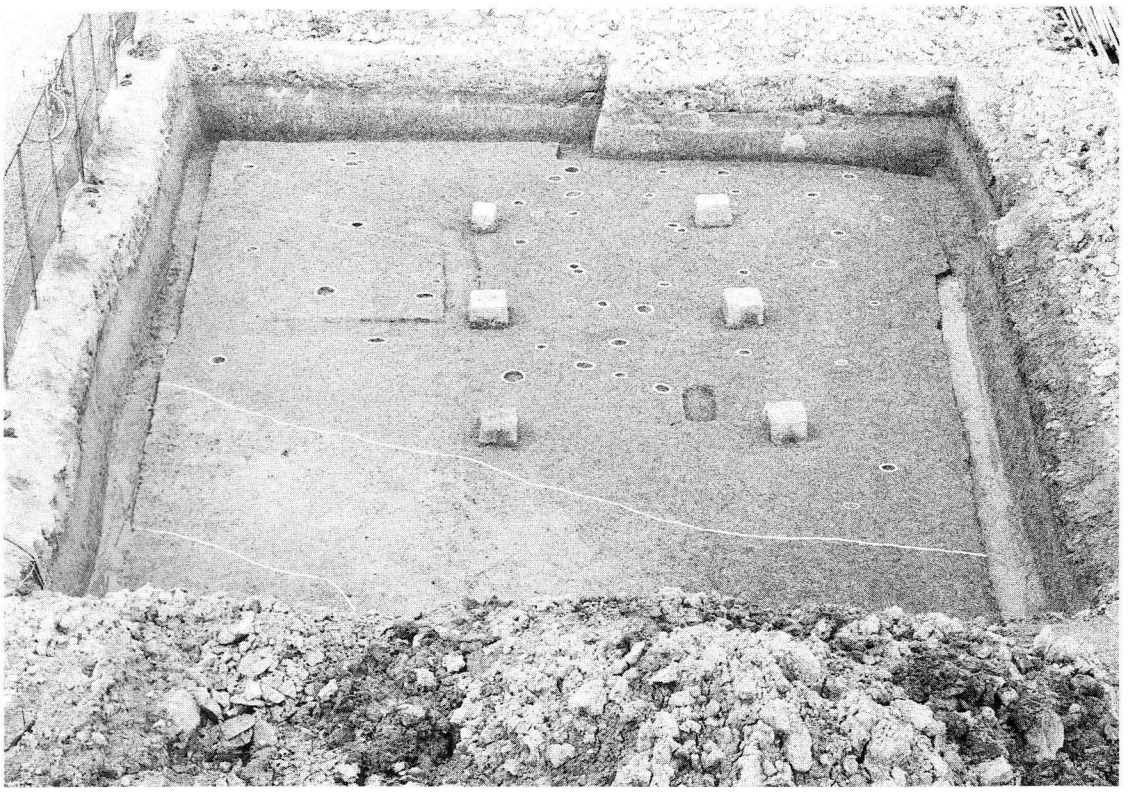
第5図　出　土　遺　物

表－1　大浦遺跡８９年－１区遺物観察表

図番号	種類及び器種	法　　量	記　　事
1	土　錘	長さ　3.5 cm 径　1.1 cm	
2	丸　瓦	短軸（残存）　9.5 cm 短軸（残存）　7.5 cm	破片
3	羽　釜	鍔径（反転復元） ２４.２cm	鍔のみ残存の破片
4	不明（瓦器か？）	口径（反転復元） １０cm	破片
5	東播系こねばち	口径（反転復元） ２７.８cm	破片
6	東播系こねばち	不明 反転復元できず	破片

図　　版

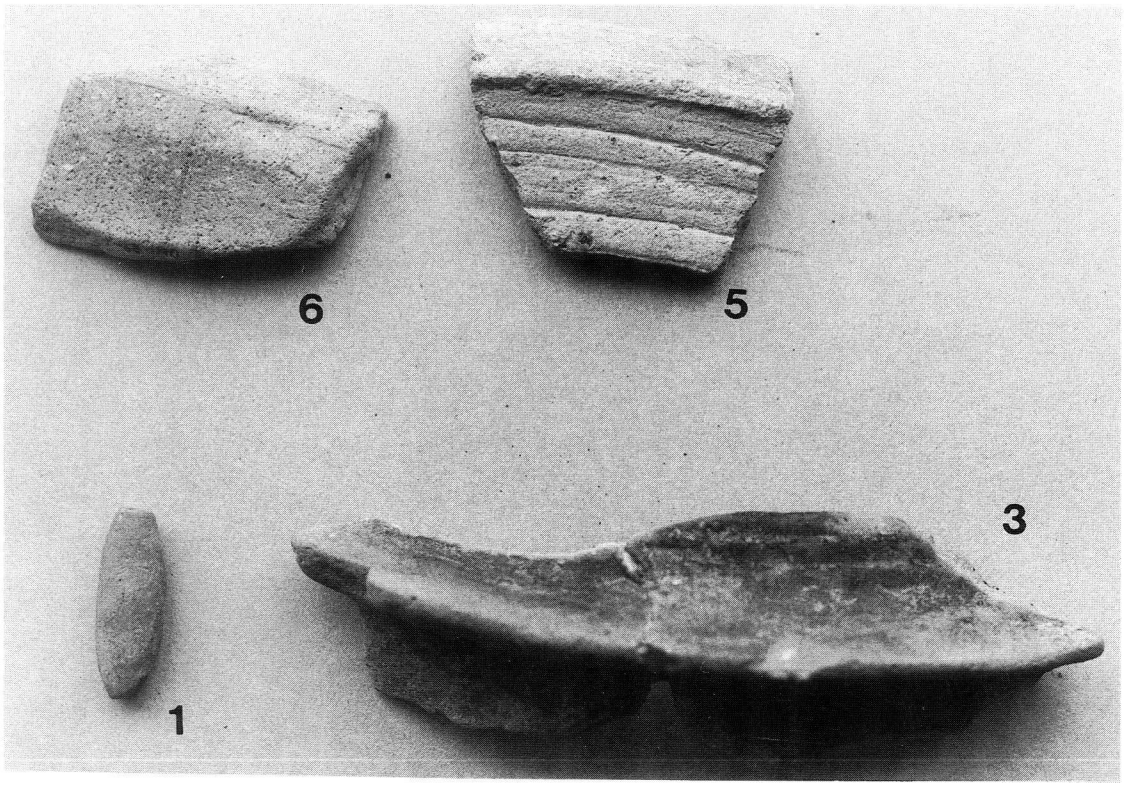
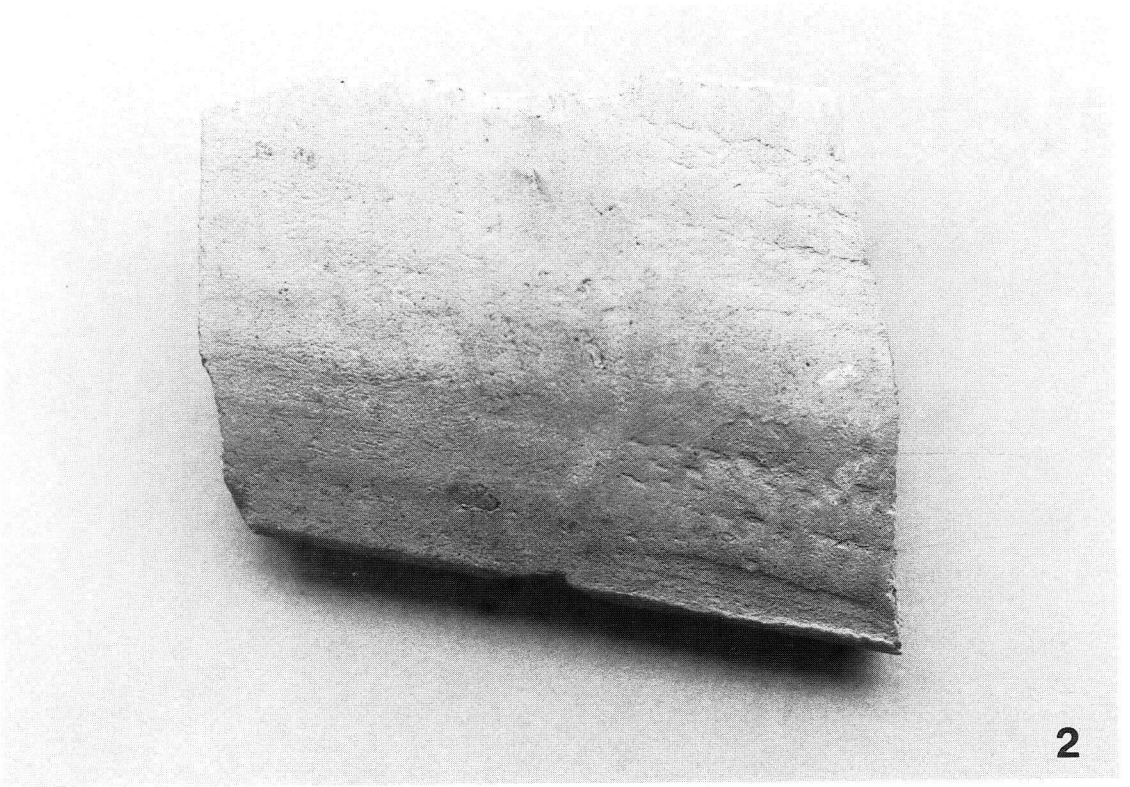
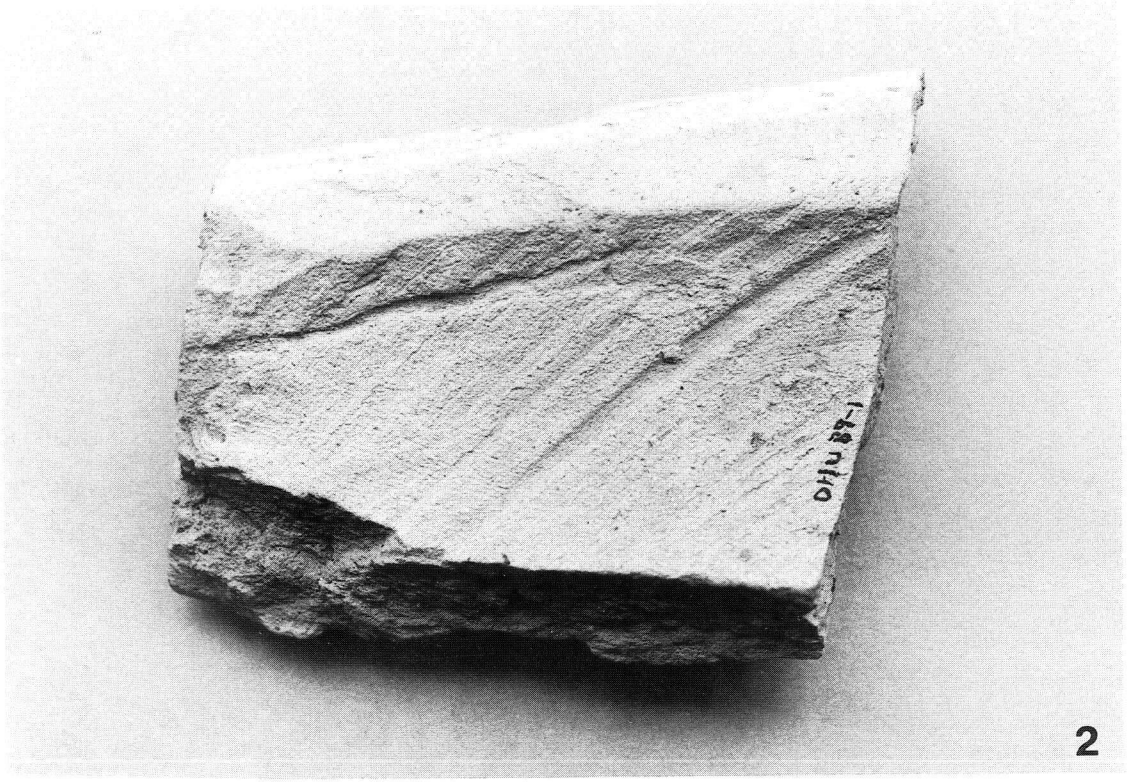
図版第一　遺構検出状況



調査区全景

溝検出状況

図版第二　遺構検出状況・出土遺物



図版第三　出土遺物